

EU Indicators

発表日:2018年9月25日(火)

欧州経済指標コメント:9月ドイツIfo企業景況感

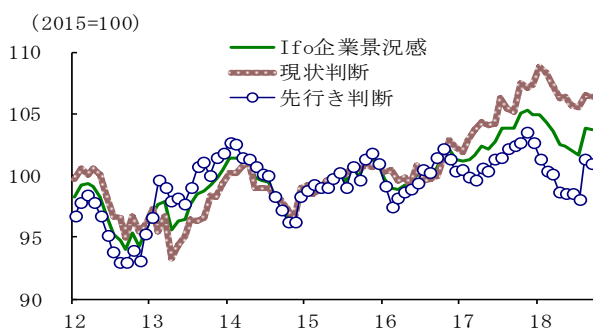
～急降下から水平飛行へ～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

首席エコノミスト 田中 理 (TEL:03-5221-4527)

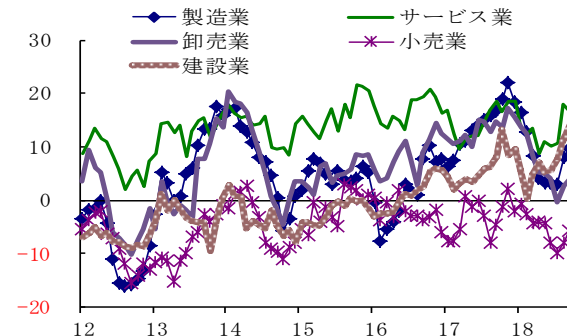
- 24日に発表されたドイツ I f o 企業景況感 (2015年=100の指数) は、8月に前月差+2.2ポイントと急伸後であったにもかかわらず、9月が同▲0.2ポイントと小幅な落ち込みにとどまった。内訳は、8月に同+1.0ポイントの現状判断が同▲0.1ポイント低下、8月に同+3.2ポイントの先行き判断が同▲0.3ポイントと、何れも小幅の反動減。昨年末以降の急激な景況冷え込みが一服し、ドイツ景気は安定成長軌道に復帰しつつある。
- 業種別の現状判断 (ゼロが分岐点) は、サービス業 (前月: +48.0→今月: +49.6)、小売業 (+11.1→+16.6)、建設業 (+49.7→+51.2) の内需関連業種が前月から改善モメンタムが加速した一方、製造業 (+41.9→+38.1) と卸売業 (+31.7→+30.0) が鈍化し、全体の足を引っ張った。業種別の先行き判断は、前月に急伸したサービス業 (+17.9→+16.5) の改善が鈍化したものの、製造業 (+8.1→+9.7)、小売業 (▲8.0→▲5.7)、卸売業 (+2.8→+3.8)、建設業 (+11.2→+14.1) が揃って改善 (改善モメンタムが加速ないし悪化モメンタムが縮小)。
- 米中間の貿易戦争が一段とエスカレートしているが、製造業の業況下押しを内需部門の堅調が相殺する構図。ただ、製造業の先行き判断も底打ち傾向にあり、自動車分野を対象とした米欧間の貿易戦争がひとまず回避されたこと、米中貿易戦争や新興国不安が今のところドイツ企業に大きな悪影響を与えていないことが、好感された模様。

■ドイツ: I f o 企業景況感



出所: Ifo

■ドイツ: 業種別の先行きの業況判断



出所: Ifo

■ドイツ I f o 企業景況感

	2017				2018				2017				2018			
	4Q	1Q	2Q	3Q	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
企業景況感(総合)	105.1	104.3	102.3	103.1	105.3	105.0	105.0	104.3	103.6	102.5	102.4	102.0	101.7	103.9	103.7	
現状指数	107.3	108.1	106.1	106.1	107.1	107.4	108.8	108.3	107.2	106.3	106.4	105.6	105.5	106.5	106.4	
先行き指数	103.0	100.7	98.6	100.1	103.6	102.7	101.4	100.4	100.2	98.7	98.6	98.6	98.1	101.3	101.0	
業況判断	26.9	25.1	20.1	20.8	27.6	26.3	27.5	24.9	22.8	20.0	20.7	19.6	19.8	21.3	21.3	
製造業	33.0	30.8	24.3	23.4	34.6	32.0	34.0	30.4	27.9	24.6	24.2	24.1	22.5	24.3	23.5	
サービス業	32.7	30.9	26.8	30.6	32.5	33.1	32.0	30.5	30.1	26.7	27.4	26.4	26.8	32.4	32.5	
卸売業	24.2	23.8	16.8	16.1	25.5	25.2	25.7	24.7	21.1	14.9	18.1	17.3	15.2	16.7	16.5	
小売業	8.1	6.1	4.5	2.7	7.6	7.9	9.3	7.1	2.0	3.4	7.6	2.6	1.8	1.3	5.1	
建設業	18.1	17.2	19.9	29.7	16.6	18.1	17.4	15.6	18.6	19.7	20.5	19.6	27.6	29.6	31.9	

出所: Ifo

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

